

問題行動を持つ生徒の指導事例

渡 辺 貢 英*

この研究は、学校、家庭に適応できず一人別な方へ心的エネルギーをむけている問題行動の多い生徒について、そうさせている外的条件を改善し、同時にふだんの生活場面で、あるいは教育相談を通して、本人のその時々をの気持ちを理解することに留意し、援助することによって、好ましい方向に変容することを期待し、実践してきたものである。

I 実践の目的

本生徒Aには仲間にくらわれる、両親が理解してくれないなどの欲求不満から、たびかさなる問題行動があった。本年4月から担任となったが、2月より旧担任の依頼で接してきた。本人を問題行動にかりたてている外的原因があればとり除き、同時に教育相談的接触により本人の変容をはかりたい。

II 生徒の状況

1 対象生徒 中学2年 女子 A

2 問題行動の概要

本年2月市内に演奏出演のDという芸能人にあこがれ東京へ単独で行ってくる。母に叱られ再び東京へ出かけたが2日後補導される。その後も、一度でようとしたが事前に知られできなかった。

5月、友人の家へ行き、親の金を盗み家に帰る。その金はレコード購入と実況放送を見るためのタクシー代につかわれていた。その他、男生徒にからかわれたりされるので、学校がいやだと校長にうたえる。

なお、小学校時代、金銭を取るということが1度あった。

3 本人をめぐる状況

(I) 性格

Y-G性格検査—中学1年(50・3・6実施(図1))の結果では判定E型で気分の変化大、主観的、非協調的、攻撃的などの傾向が強くあらわれている。日常あるいは上記の問題行動にもそれが強くあらわれていると思われる。ふだん我ままで、嘘言をはくことが多いと小学校の記録にある。

* 新潟市立松浜中学校

(2) 知能及び学業成績

知能 中学1年教研式学年別知能検査

偏差値 38

学業成績

	国	社	数	理	音	図工	家	体	英
小学校	3	2	2	2	3	2	2	3	1
中学1年	3	2	2	3	2	2	2	2	3

(3) 家庭環境

父 漁業船員，母 工場作業員，妹 小学6年生の4人家族。父は月に1，2回不定期に家に帰る。父は若いときから船上生活を送っており家では無口である。

親子関係診断テスト(S50・3・2)によると(図2)に見られるように子から見た両親は消極的拒否不一致の傾向が強く，母は支配的期待型の傾向も示し，矛盾，不一致型ともに0を示している。

(4) 友人関係

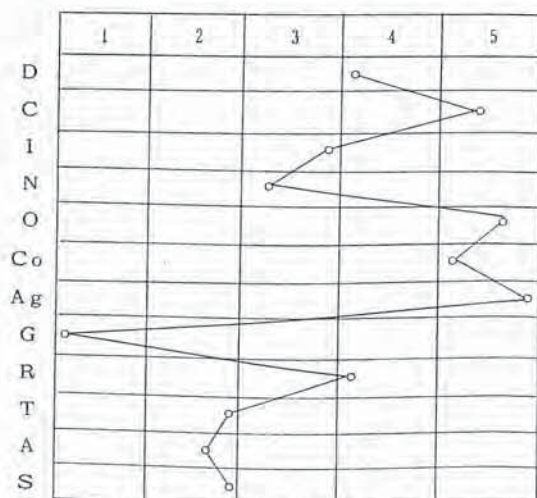
声をかけたり，一緒に仕事をする友人はいるが問題行動があるため異端視されている。男子は一緒にグループになるのをいやがったり，軽べつするものもいる。ソシオメトリックテストによると，一緒にグループになりたい人は35名中2名で，その2名は誰とでもよいというものであり，一緒にグループになりたくない者は男子16名中11名女子2名であった。

Ⅲ 実践の記録

1 指導方針

学校では級友にうけ入れられず，家庭ではふだん放任してるが，何かあると非常にきびしくやられる。そのようなことから，興味の対象が学校，家庭生活からはなれ，一人でグループサウンズに熱をあげたり，時には奇妙な電話で欲求不満をはらしていたと見られる。

そこで



(図1) Y-G 性格検査



型	父	母
9 矛盾型	8	0
10 不一致型	0	0

(図2) 親子関係診断テスト

- (1) A及びその両親とのレポートをつくる。そのため積極的に家庭訪問をする。
- (2) 両親がAに暖かく接することができるよう援助する。
- (3) 級友・友人との関係を改善する。
- (4) Aのその時々気持ちを理解するようつとめる。

以上の方針で指導を手がけることとした。なお家出の件以後、学校だけでは手のとどかない面もあるので、新潟市青少年補導センターで定期的に相談を受けている。

2 実践の記録

初めて、Aの存在を知ったのは、Aが校長室へ男子生徒がいじめるからと泣いて直訴にきたことであった。この時はAのクラス担任がクラスで話し合い解決したのであるが、その後Aが情緒不安定で、級友ともうまくいかないからと担任から教育相談をしてみてくれないかとの話があった。それでAと接触することとなった。

2月上旬 Aとの面接

T 前に男子にいじめられたことはどうですか。
 C それは少しあるけどクラスで話しあって今はありません。
 T たいしたことない。
 T 今気になていることなんか。
 C うーんと妹が私のいうことをきかないんです。
 T いうことをきかないの。
 C 私が注意してもだめなんです。

T それで。
 C それだけです。
 T もう少し妹さんのことをききたいんだけど。
 C それだけです。あとはなんにもありません。
 C それから歌が好きです。歌手では竹久敦子とフィンガーファイブが好きです。テレビに出るとみんな見ます。

歌謡歌手の熱烈なファンであることと妹のことが話に出て、気になったが多くを語らなかった。Aの心に何かこだわるものがある気がした。また機会をみつけて話を聞くことにして終った。

2月下旬の土曜、家出、月曜には東京から一人で帰ってくる。

そのことで母親にひどく叱られ一日おいて再び家出をする。Mプラザに演奏出演していたDという芸能人に会いたいというのが動機であった。Dとその家族の親切なはからいで無事帰ってきた。

4月春休み再び出かけようとしたが駅で補導される。

新学期、学級編成がえてAの担任となる。ソシオメトリックテストの結果は、排斥が一番多い。グループ編成では、表だたないが比較的明るい女子のいる班に入れる。同じ班に学力同程度の女子をもう一人入れた。

4月15日、母から電話で、男子生徒にからかわれたことがいやで学校へ行きたくないと一晩中泣いていたとのことであった。翌日、本人と、からかった男子Hから話をきくと、清掃のとき「おまえみないの死ね」といったとのこと、今後いわないよう注意する。

4月22日、放課後、教務室へ「男子がいろいろ言うから他校へ転校したい。先生手続きをして下さい。」と訴えてくる。かなり深刻そうであった。Aには、その気持もわかるが他の学校へは住所がかわらないかぎり転校できないと告げる。

男子でAに悪口をいう生徒は8人おり、再度強く指導した。本人たちもいじめないことを約束した。以後いじめる生徒もなくそのことに関しては安心して学校へ来ている。

4月27日、両親との面接、父が帰っているというので訪問してみる。

家出のときの状況を、父母かわるがわる話をする。父は、Aに、「中学校さえ出れば本人が上京する気があるなら上京してもよいからとにかく中学を出るように。」と話し、Aはこれに元気づけられ学校へきているようである。また父は、「船に乗っているときが一番面倒なことがなくていい。」と言い、母は「先生方に迷惑をかけ申しわけなかった。学校へあやまりに一度うかがったら良いのだろうか。」とたずねる。両親とのレポートをつくるのがまず必要と思い、気楽に話をきき、Aのことであしなさいこうしなさいということはいわなかったし、その必要もないと思った。

退校後、ワンピースを着て子供用2輪車にのって小学生と遊んでる姿がときどき見られる。前より表情に安心感がうかがわれる。

5月7日、学校の帰途、バス停に母親がきていろいろ話をする。連休は母の友人の車で姉妹をつれドライブに行ってきたという。「Aがテニス部へ入りがっているがどんなものか、もしやれるならラケットを買ってやりたいのだが。」という話なので、「入部するのはけっこうなことである。しかし長続きするかどうかラケットはもう少し様子をみてからにしては。」と答えておいた。母がAについてかなり配慮している様子がうかがわれた。

5月14日、Aが友人の家へ遊びにその家の両親の金をとったことがわかる。

Aはこの金で歌謡曲のレコードを買ったり、放送局の公開番組を見にいくためのタクシー代に使っていた。最近学校でいじめる生徒もなく、落つきと明るさが見えてきたと思っていた矢先にこの件がおきたので、Aを見る目があまかったのかと、暗たんたる気持になった。しかし落ちついてふりかえてみると、Aが精神的に安定してきていることは事実であり、あとに引けないことなので、この件はこの件として今後も、今までどおりの方針でやった方がいいと、自信をもってやっていくことにする。

この件の報告と、今後のことで家庭訪問をする。事件の処理として親のなすべきことを話しあい、しかしあまり叱りすぎないよう助言する。

6月10日、家庭訪問、母から家へ寄ってくれということによってみる。最近のAの様子や夏休みを迎えたときのAの生活について話す。夏休みに入ったら心配なので手芸でもならわせたいとのことである。まだ夏休みまで1か月半あるので、その間充実した生活をおくることを考える方が先であり、夏休

み前にもう一度考えることにする。家に帰るとAは犬のぬいぐるみを一生懸命作っているという。手芸が好きなのである。

学校では、授業中ノートはきょうめんにとっている。国語が比較的得意である。いつも下をむいてノートをとったり授業と関係のないことをやっている。昼休みは女子のグループと一緒にいたり、一人で図書室に行って本を読んだり、図書部員の手伝いをしたりしている。放課後も図書室へ行くことが多く、司書と話をかわしたりしている。

担任とは、何かたずねられたりすると答える程度で、Aの方から話をもってくることはほとんどない。5月の件のとき、先生は自分をもっとおこりたかったのではなかろうかと親にもらしていたとのこと。

7月1日、Aが教務室へ用事にきたが不機嫌そうなので相談室へつれてって話をきくと、生徒どうしグループで順番に宿題をだすことになっていたが、Aの番だということを誰もいわないのに当日になってAがだすことになっていたと言われ不満だったと話した。話せばもうその不満は消え去るのか教室へもどっていった。

7月9日、夜、母より電話があり、ラジオで自己紹介し交際を求めたところ、男の子から電話がAのところへきたのでどうしたらよいだろうかととの相談であった。

夏休みである。Aは安定しており個人的な面接もなくそのまま夏休みに入った。最近の様子だと大丈夫だと思えた。

8月20日、学校召集日である。ところがAは来ていない。親に問い合わせると「学校へ行く。」と言って出ていったとの話であった。また家出かと心配しあわてたが、Aはまわりの心配などこふく風で、午後ゆうゆうと自転車でさっぱりした顔で帰ってきた。病気で入院している友人を見舞に行ってきたといったが、半日もいなかったで他にどこへ何をしに行ってきたのかきいたが、答えなかったので無理してききただすこともしなかった。ほっとすると同時にちょっとあわてすぎたかなと思った。

9月2日、2学期も始まり、午後水泳大会、レース後半疲れて「アップ、アップ」しながらも最後までよくがんばり意欲的に参加していた。

Aとの話し合い

T いま一番やりたいことは。

C やっぱりカセット買いたい。おとうさんのあるけど……。

T そういうことおかあさんに話したの。

C していない。

T お年玉でかうとか。

C もうそれは予定がついてる。

C ラジオつきののが買いたい。

T ほとんど、あんたの好きな音楽をきいているの。

C うんと、ラジオからふきこんできいている。

T それじゃ、レコードと同じだね。

T 豊川、聞きにいった。

C 行きたかったけれどもおかあさんに止められていけなかった。

- T おかあさん、あんたのこといろいろ心配してさ、
 そういうことわかるでしょう。
- C 友達もきたら、一緒にきたら、行きたかった
 けれど、やっぱりだめだった。ああいいうテレビ
 見ているとファンの人があれだからやはり
 だめ。私も行きたかったけれどまたくるかも
 知れないので。
- T 先生も豊川、テレビで見たよ。
- C うん、かわいそうだ。
- T 豊川が、何かあるの失恋したとか。
- C そういうことじゃなくて一生をきいてよね。
- T ほう。
- C 施設で育てられて本当は鉄道学校へ行ったん

- けど、やめていろんなところではたらいて
 歌手になるためにはたらいて、それで歌手に
 なった。
- T そうなの。ほう、今も親がわからないの。
- C わかんなくてデビューしたときすごく豊川の
 親だという人が何万人もいたけれど、それ全
 々気にしてない。
- T ああそう、さがしもしなかったの。
- C やっぱり自分そういうことあれだからわかっ
 ても思い出したくもないし、だから自分
 の本当の生まれと、年令が全々わからないから。
- T それでAさんはかわいそうなんだね。
- C うん。

歌謡歌手へのあこがれは相変わらずである。このような話のときは話がはずむ。母の忠告を素直にうけ
 入れるようになってきていることなど、前より親子関係がよくなってきたように思えた。

母親との面接

- T そういう話をきいて、まあ子供さんも話がわ
 かった、感じるころあった。
- C はい、まあ、あったらしいですね。話きくと
 ね。
- T まあ、お母さんとすれば子供さんに何かため
 になると思ってつれてったんですね。
- C はい。でもトンボでも、まあきかない泥沼にい
 ても、生まれかわることによって羽があって、み
 んなこうきれいなトンボになるっていうこと

- にであうとかねえ。
- そういうこと生まれかわるっていうこの話だ
 ったんですねえ。他にもあったけど。
- T あっそうですか。特にそこが印象に残ったん
 ですねえ。
- C 私はまあ、そういうところが印象にのこった
 みたいなんですよねえ。(沈黙7秒) 自分
 の……まあくりかえしてくれなければいいと
 心配なんですけどねえ。

Ⅳ おわりに

学校でのふれあいと家庭訪問などによる両親や本人との話しあいなど、担任教師として可能なことは
 やってきたが、力のおよばないことは新潟市補導センターの絶大な援助を受けてきたし、現在も受けて
 いる。6月ころまではラポートづくりにつとめ、以後Aが精神的に安定している様子でもあり、多少つ
 きはなしでも大丈夫のようなので家庭訪問も少なくなった。

9月以後水泳大会、校内マラソン大会にも本人は力をだしきってがんばった。教室では級友とふざけ
 あっている場面もたびたびある。

母親のAについての関心や接し方が変わったことは、PTAの会合の出席や子供を休日にはどこかへ一
 緒につれていくことなどにあらわれており、Aの今後に明るい見通しをもたせてくれる。

5月以来、表だった問題行動がおきていないというだけでまだ安心できない面も多いが、Aの気持をも
 っと聴き、Aの自己理解をさらに援助していきたい。